

AVM

マルクール商用廃棄物ガラス固化施設

AVM えいぶいえむ

AVM (Atelier de Vitrification Marcoule : マルクール商用廃棄物ガラス固化施設) は、フランスで開発されたマルクールの高レベル放射性廃液 (HALW) のガラス固化施設である。1978年に実用規模施設のホット運転が開始され、現在も稼働中で、HALWを1000立方メートル以上を処理した実績がある。AVMはロータリキルン仮焼炉と誘導加熱溶融炉とからなる固化施設である。ロータリキルン仮焼炉とは、約330rpmで回転しながら4区分の外部加熱器で円筒の前半部でHALWを乾燥しつつ、後半部で仮焼し、最後部でガラス化剤 (耐熱性ガラス) とともに溶融炉内に仕込まれる。溶融炉で溶けたガラスはキャニスター (容器) に注入され固化体となる。

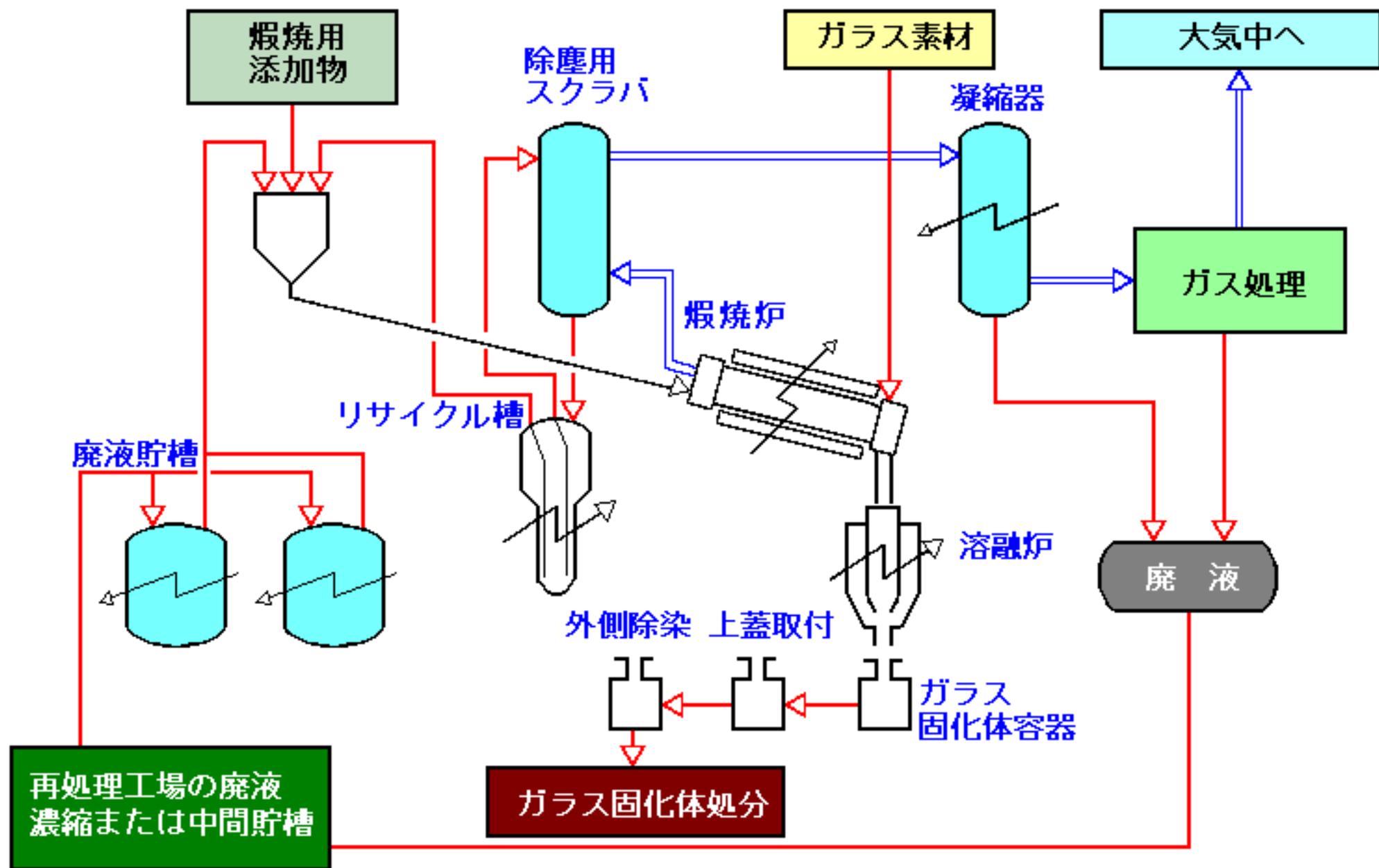
---

<登録年月>

2001年09月

---

---



フランスMarcouleガラス固化工場(AVM)で用いられている連続工程

[資料提供] CEA(フランス原子力庁)